ザークルフィオレ
レムは
嫌な子になってしまいます…。
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の購入・閲覧禁止

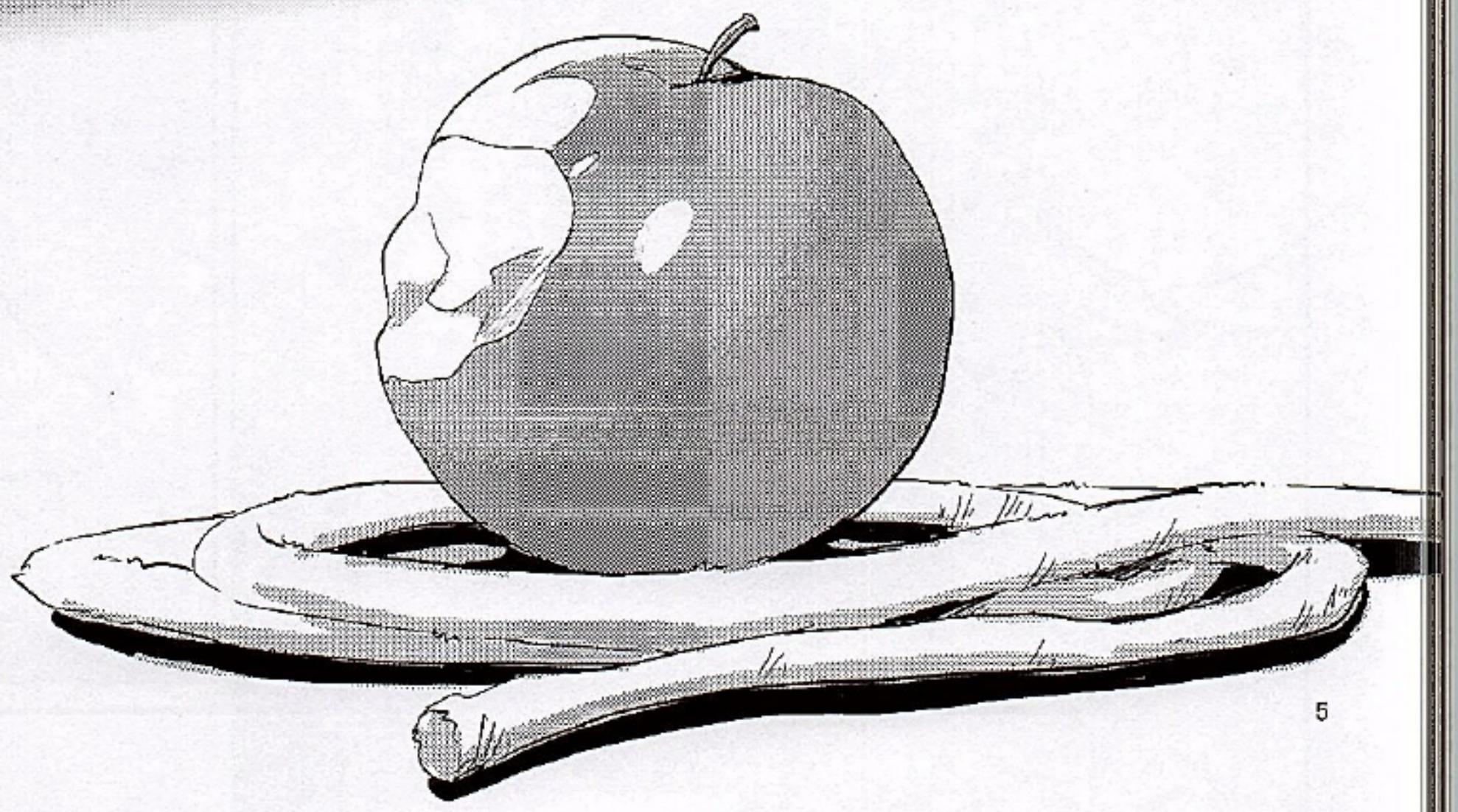
かわいい…♥
最近あまり指切うなかったのに
おわ!
俺の指がーっ!!
よっしゃー!
ばっ!
次は風呂掃除だ!
カワイイ…!
作日も同じトコ掃除したのに

エミリア様が出掛けられて数日休むように言われてたのに張り切ってでも無邪気にあちこちケガしてばっかで
今かわいいスバルくんは
レムが下ろめです♪
本当はほっといちゃいけないのにあぁ…スバルくんが可愛くて仕方がありません…♥

でもなんでスバルくんはこんなに張り切って…?レムは様子の変化にすぐ気づきました
あそる…
ずっと街を眺めてエミリア様の帰りを待って寝なくなったのです
朝の事は強がりなのだと相談してくれない事にどこか寂しさを覚えてきたのです。

スバルく…
スッ…
ピクッ
もしここで声かけても
スバルくんの事だからきっとまた強がりを…
やっぱりまだ本心なんて…弱さを見せて助けを求めてはくれない
スバルくんの言葉を信じてずっとずっと優しくできるのを待っているのに
一体どうしたら
弱いスバルくんを見せてくれるんだろう
ぐらっ
スバルくんっ!
もしかして本当に一睡もせず?!

エミリア様の命で魔獣につけられた傷を癒すため
レムがスバルくんの介抱をする事になり
独り占めの数日間がやってきた
スバルくんのレムになろうと決めたレムの
至福の時間になるはずだった
でもスバルくんは傷ついた体で
以前より活発に振る舞い
弱さを隠して助けを求めてはくれない
スバルくんの為になりたいだけなのに
このままじゃレムは何もできないレムに
誰の力にもなれないままレムの時がまた止まってしまう
一度だけでも弱さを見せて助けを求めて
無価値じゃないって肯定してほしい
エミリア様との約束だってあるのに
ううん違う、あぁどうしよう
スバルくんに振り向いてほしいだけなのに
レムは身勝手な事ばかり考えてる
これは『レムの弱さ』なのかわからない
『スバルくんへの優しさ』なのかわからない
このままじゃレムはー!!
レムは嫌な子になってしまいます



光…？
パチッ。
パチッ
チュン
チュン
朝…
エッ
ズボッ
エミリア
ガバッ

って…あ…あれ？
寝てた…？
うーん
そうかエミリアに
安静にって怒られて
でもジッとは
できなくて
それで…倒れた？
のか…？

いつの間にか
寝巻だし
誰がこんな気を遣って
ん？

すぴー
すぴー
むにゃ
むにゃ
そりゃまぁ
レムしかいねーか

男の子としては
なでなでしたい
光景だなぁ

ハハハ

?!

?

お人形みたいで
すんげー可愛い
寝顔じゃねーの

迷惑かけといて
こんな事思うの変だけど
寝顔のレムは
すげーレアイベントだ

いつ寝てるか
わからないレ

スバルくん…

すぅ…

スバルくん…

すぅ…

あれ…スバルく…
ってレムと
したことが…!
そ…それより
レム…

ゆだんしたっ

かわいい…

とりあえず
後ろのコレ
ほどいてくれよ

迷惑かけといて
言うのもなんだけど
お仕置きさせるほど
レムを怒らせたのか…?

ごめんなさい
スバルくん

もう無理をする
スバルくんを
ほっておく訳には
いきません

休んでもらうのも
エミリア様との
約束ですから

だってレムは
心配なんですよ

休んでもらうたって
流石にこれは
大袈裟じゃね…？

ハッ
ハッ

目を合わせては
強がりばかりで
本当のことは
言ってくれない

ひとりの時は
誰にも見せない顔で
思い詰めて

結局ひとり倒れて
こんなことに

ちかい！
ちかい！
ちかい……！

だから
ちゃんと休んで

無理した
本当のこと
教えてください…

ムネ！ムネ！
ムネ…！

じゃ…
じゃないと
レムは……！

ハッ

スバルくんもスバルくんの言葉もなくしてしまいそうで嫌なんです

ゴロ

ゴロ

ゴロ

『俺、鬼と笑いながら来年の話すんの夢だったんだよ』

『お互い寄りかかって進めばいいよ』って言ってくれたのに

スバルくんのレムは言ってくれたら何でもするのに…ひとりで…ずっと…

す…スバルくんのレムって…

こんなに詰め寄られてエミリアが心配で寝不足だっただけなんてマヌケな事…言えるわけ…

ガバッ

というか元の世界も異世界でもこんなに好意を寄せられたことなくて緊張する…！

息遣いが尚こえる…

チュ♥
ドキ
エミリア様を特別に思ってるのも知っています…でも聞こえたからスバルくんの本音
「ゴクリ」って
レムはもうスバルくんの言葉を取りこぼしたくないだから…その…ごめんなさい…
俺がレムに送った言葉をなくしそうで
でも本心は優しくしたくて
だからひとつだけ教えてくださいスバルくん…!
もっとしたいですか…?
誰の為かわからずこんがらがって
というかそんなに好かれてたの?!

したい
レムと
だったら今は
目の前の女の子との
言葉を大事にして
やるべきだろう…！
スバルくんの言葉
うれしいです…♥
はっ♥
スバルくんから
おねだりしてくれた♥
あっ…やっべぇ…
頭の中
ぼ――っとしてきた…

スバルくんが褒めてくれた…
むっ
胸で奉仕しますね…♥
うわっ
初めて見た
あんな…白くてフワフワで…
うわっうわわっ
!
それじゃ失礼します…♥
スバルくんが喜んでくれてる…♥

これならもっと
喜んでくれるかな…？

ぎゅーー♥

うわ…！

うわわわ…！

レムは
パイズリ知ってるのか？

パイ…ズリ…？

レムはただ
素直になってくれた
スバルくんのここに

スバルくんの
好きな物を
あてがってるだけです

だってもっと
素直になって
ほしいから…♥

じゃ…
じゃあ…
ゆっくりこすりながら
……キスもしてくれ…

じゃあちゃんと
こっち向いてください

自分から
キスを
せかんどいて

舌出して
ください♥

れろっ

でもこんなに
思われて
ムシなんて
できないだろ

トキ

腕だって
縛られてるし

ぷん

しょうがねえんだよ

トキ

不安にさせたのは
俺なんだし

トキ

うしろめたさを
感じてる…
エミリアが心配で
こんなになったのに

ぷん

やば…
考える前に
言葉で出ちまった

トキ

レムはスバルくんの
レムですから

キッ

怖がることなんて
ないんですよ…？

はむ♡

舌だけじゃなくて

スバルくんの唇はアムアムしても美味しい…です♡

今度はこっちも

いっぱいキスしないと♡

スバルくんの反応した…♡
よかった…
もっともっと喜んで…♡

おいおいおい…！
こんなのって教養無しでやらかす事じゃないぞ…！

スバルくん…

レムのワガママも聞いてください…

顔真っ赤にしてる
可愛いスバルくん見てたら
レムもしてほしくなりました

レムにはスバルくんと同じ物を持ってないけど…

気持ちよくなれますか…？

あぁ…
何も知らないのに
ドキドキが
止まりません…♥

レムは…！
レムはなんて
はしたない…！

大丈夫だよ
はしたなくない
お、俺も
もっとしたいと
思ってたしな！

それと
女の子のは…
お、おまんこって
言って…その…

お互いが
キスしあうと
すごく気持ちいいんだ

何教えてんだ
俺は…！

わかりました
スバルくんの
ために…

ううん…
レムがスバルくんの
言葉に甘えさせて
いただきますね

うっわ！うっわー！
初めて見た……！
プニプニだ……！

あの…
嫌になったら
言ってくださいね

スバルくんが
キスしやすいように

レムはお姉さまほど
清潔ではないですから

お…おまんこ
開きますね…♡

レムは
特別だから
キレイだし
比べることもない

だからレムも
気持ちよく
なってくれ……！

レム…
俺のおちんちんも
キスして

おち…
んちん…？

なんだか
可愛い名前

スバルくんだから
そう思うのかな…

なりゆきで
こんな事になったけど

こんなところ
エミリアに見られたら

もう何もかも
パーだろうなぁ

ダメだ…俺…
気持ちよくて
もう言い訳
思いつかないねぇよ…
レムの鼻は
よく利くから
こんな濃いの
口にしたら
スバルくんの香り
もう一生抜けなく
なっちゃいますよ…♥

言葉を聞ければ
それでいいって
最初は思ってたのに

ガマン…
できない……
これ…なに…？♥

ごめんなさい…♥
レムはやっぱり
嫌な子…です…♥

レムは嫌な子
じゃないよ
だって俺を守って
こうしてくれたんだ

むしろ
謝らなきゃ
いけないのは
こっちだよ

ありがとう
レム

自分を守っていただけなのに
こんな都合の良い
言葉に甘えてしまう
弱いレムをどうか
許してください♥

お…
おい大丈夫か？

だ…！
大丈夫！
レムの事は
お気になさらず

レムは言っても…！

こんなに
腰振ってるのは

鬼ってだけじゃ
ないだろ…！

小さくても
鬼の身体は丈夫ですから…

受け入れられたのは
スバルくんのおちんちん
だからですけど…♥

ズバル
なにが
きキキ
ズバル
ズバル
ズバル

ドキ
ドキ
ドキ

紐ほどいてくれて
ありがとうレム

スバルくん
すこし待ってて
ください

テル

いえ…
元はと言えば
レムがした事です

お風呂と
着替えの準備を
してきますので

テル

……

俺…
あんなに出したのか…

二発目…
だったはずだよな…？

もしかして俺…

スッ
スバルく…？

ぉ。

ムム

急に何を…？

ぉ。

ぉ。

ぉ。

だってあんな量
射精しといて
言い訳のつかない事まで
しといて！

今更ワガママに
乗っただけなんて
オカシイじゃないか

きっと俺はエミリアと
同じくらいレムが大事で
それで、それで！

そもそもエミリアの事
俺は何も知らない
知らない男と
こんな事してるかも
しれない…！

このまま帰ってこない
って事もあるかも
しれないんだ

レムが俺から離れたら
また一人になって…
嫌だ嫌だ嫌だ！

だから…！

ずっと一緒にいてくれレム…！

やっと弱さを見せて求めてくれた！でも告白なんて…

心から想像する事もおこがましいと思ってた言葉…嬉しい…！

でも泣いてるスバルくんを肯定しちゃいけない――！

だから言葉を返したら後戻りできなくなる

なのにもっと聞きたくなるっ

スバルくんの言葉…！

スバルくんは
レムのこと…

好き…
なんですか…？

あぁ…聞いてしまった
レムはもらってばっかで

本当に本当に
嫌な子です…♥

嘘なの
わかってるのに…

わかってるのに…♥

嘘でも…
いいのかもしれない

視界が全部
スバルくんで
埋まって

嘘も重ねれば
いつかは本当になって
幸せにずっと幸せに――……♥

スバルくんのレムに
なるって決めたのに

スバル

決めたのに…！

スバルくんの事
好きって言いたい♥

一緒にいたいって
言いたい♥

ズバッ

ズバッ

ズバッ

寝顔のレムは
やっぱり可愛いな
直接言ったら
怒られそうだけど

ナデナデ

きっと徹夜で
面倒見てくれたんだよな
ありがとな

ナデナデ

んんっ♥

起こすのは
マズい…！
がんばり屋だから
飛び起きて
また面倒かけちまう

迷惑かけてゴメン
おやすみレム

起きたら
一緒に町に行って
色々なものを見て回ろう

寝た振りしてごめんなさい
寝顔見られるのは
やっぱり恥ずかしいです

それにしてもよかった
苦しそうじゃなくて
寝顔が可愛いのは
スバルくんの方

でも本当に可愛いのは
エミリア様の名前を
寝言で繰り返してる時
なんですよ

スバルくんをみて
また大切な事を
教えてもらっちゃい
ました…

『弱さ』は自分を守る為に
『優しさ』は求める為に
ある事なんだって…

これだけで幸せだって
弱さに負けて
縛ってなければ
スバルくんのレムで
いられたのに…

今更気づくなんて
レムは本当に
嫌な子です…

スバルくんが可愛いのがいけないんです…

そろそろエミリア様が
帰ってきますね
ひとりじめの時間は
もうおしまい

レムは
スバルくんの寝顔まで
笑顔にできませんから

弱さと
優しさ

どっちを取っても一方的なら
レムはもう迷いません
だってレムの求める物は…

スバル起きた！
大丈夫…？
あれ…
レ……？　ミリア…！
もう…
まだ寝ぼけてる
私はエミリア
母音が似てるからって
間違えないで！
あぁごめんごめん
エミリアたん
って…
レムはどこに？
アハハ
レムはつきっきりで
スバルの体調を
気遣ってくれたって
私がいてもいなくても
無理をするなんて…
スバルを置いてきた
意味がないじゃない
あまりレムを
コキ使うんじゃない！
私の気持ちまで
台無しにしちゃって…
あの…えっと
ゴメン…

だ！か！ら！

今度は私がちゃーんと寝付くまで子守唄歌ってあげる！

ん〜っ！おはよーっ

いや〜リアは甘いなぁ〜

だってまた倒れて困るのは私なんだからっ

そっかなんか心配かけてばっかで…

ありがとうエミリアたん…

ん？

縄の縛り跡がない——…？

朝一で顔を
見せないレム

あ…あれ

乱れた跡のない
ベットや服…

死に戻りした
感覚はない
ないだけか…？

どういう事だ

もしかして
俺が拒んでいれば
すぐ解ける縄で…？

一体誰に気を遣って
こんな夢オチが
許される様な状況を…？

あぁくっそ
いみわかんねぇ

俺がなんで無理をしてたのか
レムは気づいて―…？

な！
何で泣いてるの
スバル?!

私が歌うのって
そんなに変?!

い！いや！
違うんだ
エミリア！

こんなに誰かに
優しくされた事がないから

ぶるる

どんな顔していいのか
わからないんだ

スバル…?!

自分を守るために
見放した相手の前で
後悔と安堵で涙が出た

レムとの事は
夢だったのか
夢じゃなかったのか

優しさと
弱さの違いが

誰が好きで
好きじゃないのか

誰も答えを
教えてくれない
聞けない
目を合わせられない

何と言葉を続ければ
相手の優しさに
答えられるのか
それだけの価値が
自分にあるのかも
わからない…

だから
その優しさが
聞こえないように
自分を守る為にと
声をあげて泣いた

私もそんなに
心配かけて
たんだね

でも
スバルはいつも
大袈裟だよ

もう心配
いらないから
だから
今はおやすみ

答えを出すのは
次の日の自分に託すことにするよ

あとがき

お手にとって下さりありがとうございます、先ずは感謝を。えかきびとです。
この本を作るうえで俺の妄想に付き合ってくれた友人知人その他諸々にも感謝。
何よりリゼロを生み出した作者様や触れるキッカケになったアニメ関係者様にも感謝感謝感謝
相談相手にこんなマンガどう？って聞いて全体的に苦笑いされたのも今じゃいい思い出です。
感想もいただけたらもっと素敵な事になっちゃう。すいません、調子乗りました。
2章と3章の間を意識した今回の本、万人受けするとは正直思ってないです。
濾過された笑顔のナツキレムを描ける自信もなく、ましてやウソだと開き直るには陶酔しすぎました。
美化されて見られがちなレムの精根がスバルくんと同じ物である事
何も持ってないとわかっていて何故何かを人に与えられる自信があるのか
自分を守る為の弱さや相手を求める優しさはどちらも一方的な感情のはずなのに、その違いをどこで知り
ここまで迷うことなくプロポーズを断る優しさを選べたのか
そして何かを求めるのが優しさならレムはスバルに何を求めていたのか
そんな残酷で一方的な救いでもある『スバルくんのレム』の裏付けを描きたかったのです

犠牲になるようにスバルくんにはひどい目に合わせてしまいました
でもスバルくんも悪いんだからな！作中では言い訳に逃げ胸を痛め腰を振りますが
エロでしか何かを表現できない自分への苛立ちが具現化した物です。
スバルくんは俺にしか思えないシーンがいっぱい原作にはあります。
だから俺もスバルに嘘は描きたくないと思ったんです。この有様だよ！
これはエロをないがしろにする物ではなく全て抱える物です。オカズになるのか…？なるといいな
原作を読んでは描き、読んでは描きこんなに苦しみながら描く原稿はなかった。
でも、本当に楽しかった、理解されずともエゴだらけでも良いと創作に向き合う事ができた
こんなに絵を描いて、気持ちよく、苦しい日々は久しぶりです。出会えて本当によかった。
あぁでもやっぱり理解されたい！困る！！！

リゼロの中では生きた証明はみな他人からもらう物です。
残酷で優しい世界ですが、この本もわかってほしくて40Pの大変な量に
少しでも楽しんでもらえたらいいなと思っています、そんでまた描きたいです。
弱さを共有した後のスバルタレムとたじたじなスバルくんも描きたいのです。
裏表紙なんて何年ぶりのエロくない絵なのか、こっぱずかしい！
早く読めてない文庫も読んでしまおういずれはなろう版も読む！待ってられない！！！
あと俺は…スバルなんだよね…って言って結構周りに引かれてたんですけど
アニメ監督もインタビューでおなじこと言っててすごい嬉しかった、俺は…間違ってない！
では同じ事を繰り返しますが手にとっていただきありがとうございます。
また本やイラストで会えたらよろしくお願いします！えかきびとでした
あとがき後もマンガは続きますどうぞ最後までお楽しみください

おくづけ

誌名 / レムは嫌な子になってしまいます…。
発行者 / えかきびと(サークルフィオレ)
発行日 / 2016.8.14
印刷 / STARBOOKS様
mail / ekakibit1223@gmail.com
HP / https://sites.google.com/site/ekakibitportal/

※本書の無断転載、無断転用を禁じます。
また未成年の閲覧購入はできません。

サークルフィオレ

今作からサークルロゴができました
デザインしてくれたのはI.S.W DESIGNINGの
柊椋さん！ありがとうございます！C90では
企業カタログや公式ドリンクのデザインもしてる
しゅごおおおおい方です！(しゅごい)
丸っこいカワイイデザインをお願いしてできたのですが
モノクロで使ってもカッコカワイイ！大満足！
僕もサークルもロゴも合わせてよろしくお願いします

スバルくん
エミリア様が
お呼びです

思い詰めてるのを
ほってはおけないと
お困りの様でした

ほっといてくれレム
何が大事か自分でも
わからなくて

優しくされると
それを台無しに
してしまいそうで
怖いんだ…

だから俺は…
今は誰とも
接したくない

優しくされるのは
求められてる
証拠ですよ

このままでいても
台無しにしますし
エミリア様だって
誰にでも優しいわけじゃ
ないと思いますよ

レムも
同じだから
わかるんです

スバルくんの事以外
優しくしたいなんて
思った事ない

だから言います
『エミリア様が
お呼びです』と

レムは知っています
スバルくんは
困っている人を
ほっておけない
優しいひとだって

だからレムが横で
スバルくんの事を
求めてる場所に
お連れします

じゃないとレムも
困ってしまいますよ？

スバルくんは
知らないでしょう
いつも寝言で呼ぶ名前は
レムじゃない事を

レムは知っています
スバルくんの本当を
だから嘘に染まらないで
それがレムの求める事…

ニコッ!

レムは嫌な子になってしまいます…。
おわり

Re: Life in a different world from zero fanbook

サークルフィオレ